

# 経営成績

## 1. 連結業績の概況（平成15年4月1日～平成15年12月31日）

当該期間におけるわが国経済は、雇用・所得情勢は依然厳しい状況が続いたものの、民間設備投資の改善や輸出の増加、株式市場の回復など、持ち直しの動きが進みました。海外においては、米国経済が回復基調を強めると共に、アジア諸国の景気も拡大が続きました。

こうした中、当社では、地上デジタル放送対応の液晶カラーテレビや高画素CCDカメラ付き携帯電話などの特長商品の拡充を図ると共に、システム液晶をはじめとする独自液晶やCCD・CMOSイメージャ、太陽電池などの特長デバイスの事業拡大に取り組みました。

その結果、連結業績については、売上高は前年同期比11.8%増の1兆6,743億円、営業利益は16.9%増の913億円、経常利益は31.9%増の828億円、当期純利益は24.0%増の457億円となりました。

各部門別の状況は、概ね次のとおりです。

**AV・通信機器部門**では、液晶カラーテレビやカメラ付き携帯電話が好調に推移し、売上高は、前年同期比9.8%増の6,246億円となりました。

**電化機器部門**では、除菌イオン家電などの特長商品の強化に努めましたが、内外での市場価格の下落等により、売上高は、前年同期比7.8%減の1,592億円となりました。

**情報機器部門**では、液晶カラーモニターやデジタル複合機が堅調に推移し、売上高は、前年同期比3.1%増の2,880億円となりました。

**IC部門**では、CCD・CMOSイメージャやフラッシュメモリが好調に推移したことから、売上高は、前年同期比43.1%増の1,280億円となりました。

**液晶部門**では、携帯電話用を中心とした高付加価値液晶が好調に推移し、売上高は、前年同期比20.9%増の3,067億円となりました。

**その他電子部品等部門**では、主力の太陽電池が好調に推移し、売上高は、前年同期比25.4%増の1,674億円となりました。

## 2. 通期の連結業績見通し

当中間決算発表時（平成15年10月29日）に公表いたしました当期業績予想の修正はありません。

### 【ご参考】

|       |           |               |
|-------|-----------|---------------|
| 売上高   | 2兆2,500億円 | （前年度比 112.3%） |
| 営業利益  | 1,200億円   | （前年度比 120.6%） |
| 経常利益  | 1,100億円   | （前年度比 134.3%） |
| 当期純利益 | 570億円     | （前年度比 174.9%） |

上記の業績見通しは、当社が現時点で合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は見通しと大きく異なることがあります。その要因のうち、主なものは以下のとおりです。

- |                                  |                          |
|----------------------------------|--------------------------|
| ・主要市場（欧米及びアジア・日本）の政治及び経済状況の著しい変化 |                          |
| ・主要市場における製品需給の急激な変動              | ・為替相場的大幅な変動（特に、ドル・ユーロ相場） |
| ・資本市場での相場的大幅な変動                  | ・急激な技術変化 など              |